

寒冷地での高い建築技術を誇り、  
人と環境に配慮して住む人の快適さを追求

株式会社 芦野組

旭川市旭神町 28 番地  
TEL 0166 (65) 7087  
http://ashino.bz/



300mmと壁の断熱が厚いので、窓が引込み奥行きのある表情となっている



冬に日射を取り入れる南側の大きな窓

住む人の視点で快適さを追求する「芦野ブランド」  
本物志向に込める超省エネ・高断熱「Q1.0」を提案

思いつき光が差し込む大きな窓は、日々の暮らしに「気持ちよさ」を運んでくれる。常に生活する人の視点で快適さを追求し続ける(株)芦野組(芦野組代表取締役)のこだわりだ。

新住協(NPO法人・新木造住宅技術研究協議会)に所属する同社の家づくりは、省エネで快適な高断熱住宅ということになる。その中核をなすのが、次世代省エネ基準レベルの住宅に比べ、実に半分以下の暖房エネルギーで済む超省エネ・高断熱住宅「Q1.0(キューワン)住宅」だ。

これは寒冷地住宅研究の第一人者室蘭工大的鎌田紀彦教授を中心に、新住協の会員企業が技術開発に当たった最高レベルの高断熱・高気密性能住宅。さまざまな暖房機器に頼るのではなく、住宅の性能そのものを向上させる新時代の家づくり。本物志向に支持され続ける「芦野ブランド」の真髄がここにある。

さらに「昨年より300%断熱

を主体に取り組んでいる。壁を高性能グラスウール300mmの厚さに、屋根はロックウールの吹き込み工法とすることで、家全体を断熱材300%仕様仕様に仕上げ、高断熱高気密を実現。しかも、その気密性で夏場の暑い外気をシャットアウトしたのに加え、内倒し・内開きの断熱窓や高所に排気窓を設置する細やかな配慮で、夏涼しく冬暖かい快適な住宅を提案した。

当然ながら1500円や2000円に比べ、坪当たりの単価は上がるが、「その分、光熱費などランニングコストが相対的に安くなり、結果的にプラスになる。加えて省エネで地球環境にもやさしい住宅といえる」と芦野社長は説明する。住宅設備などの各種機能の充実、流行にとらわれないデザイン、自然素材を活かした健康的な心地よさは他在「いい家に住みたい」という思いに寄り添い、プロとして決してブレない「家づくり」を提案する。それが(株)芦野組のプライドだ。

MEDIA・A

メディア  
あさひかわ

MEDIA ASAHIKAWA

2014. 8  
August (No.256)